２０２７年度
名古屋大学大学院環境学研究科
入学（進学）試験受験案内
（第Ⅱ期募集）

本ファイルは，「2027年度名古屋大学大学院環境学研究科博士前期課程及び博士後期課程学生募集要項（第Ⅱ期募集）」の説明内容を補うものです。

受験に際しての各専攻の注意事項等が記載されています。

受験を希望する者は，必要な部分を熟読のうえ，出願の手続き等を行ってください。

名古屋大学大学院
環境学研究科

2027年度名古屋大学大学院環境学研究科

入学（進学）試験受験案内（第Ⅱ期募集）

目　次

●受験に際しての注意事項等
　地球環境科学専攻
　都市環境学専攻
　社会環境学専攻

●臨床環境学プログラムの案内

●知の共創プログラム特別コースの案内

※試験会場等の建物の場所については,
https://www.env.nagoya-u.ac.jp/access/index.html　をご参照ください。

受験に際しての注意事項等

地球環境科学専攻

1. 英語外部検定試験を利用した試験科目「英語」の実施要領について（博士前期課程のみ）

1.1 試験の方法

「英語」試験は，出願時に各受験生が提出するTOEFL/TOEIC/IELTSスコアシートの結果を利用する。
今回の試験で有効とするTOEFL/TOEIC/IELTSスコアシートの種別・有効期間等については，募集要項「6．提出書類」を参照すること。

1.2 スコアシートの提出方法

スコアシートの提出については，募集要項「6．提出書類」を参照すること。
なお，提出後のスコアシートの差し替えは認めない。

1.3 換算方法

(a)下記の換算表は，今回の試験における IELTS，TOEFL（iBT, ITP），TOEIC の間の換算の目安を示している。

(b)下記の換算表は，地球環境科学専攻の今回の試験のみに適用されるものとする。

参考換算表（2027年2月実施用）

IELTS	TOEFL iBT	TOEFL-ITP*	TOEIC
7.5～	109～	630～	960～
7	100～108	600～630	870～960
6.5	90～99	575～600	800～870
6	80～89	550～575	730～800
5.5	69～79	520～550	650～730
5	61～68	500～520	580～650
4.5	52～60	470～500	500～580
4	45～51	450～470	440～500
3.5	33～44	405～450	310～440
3	29～32	390～405	270～310

*TOEFL-ITP については，2025年12月に名古屋大学において実施したTOEFL-ITP 試験のスコアのみ受け付ける。

2. 出願に際して

2.1 志望分野

博士前期課程の出願者は，志望する教員もしくは分野を第２志望まで選ぶことができる。 志願者は受験案内やホームページなどを参考にし，教員の研究内容等を熟慮した上で志望先を決めること。なお，2026年８月実施の第Ⅰ期募集において，指導可能な人数の上限に達した教員もいるため，地球環境科学専攻を志望する者は必ず，事前に希望指導教員へ連絡を取ること。また，教育上の配慮から，教員あたりの合格者数が制限される場合がある。指導教員の決定にあたっては，系・講座ごとに総合的に判断するため，試験の得点順にならない場合がある。第２志望を記入した場合には，第１志望に不合格の場合でも第２志望で合格できることがあるので，第２志望も入力することを推奨する。合格してかつ第１志望にならなかった場合は，その旨を合格通知とともに通知する。

2.2 2027年度地球環境科学専攻指導教員および教育研究内容の一覧

○別ファイルを参照のこと。

都 市 環 境 学 専 攻

1. 博士前期課程の案内

1.1 持続発展学コース

⑴ 受験に際しての注意事項

【出題範囲及び使用言語等について】

・出題範囲等については，別記1「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（持続発展学コース）2027年度博士前期課程入学試験（第Ⅱ期）学力検査出題範囲」を参照すること。

・一般選抜及び留学生特別選抜の専門科目及び小論文は，日英併記で出題するので日本語又は英語で解答すること。

【対面で実施する試験について】

・筆記試験を受験する者は，筆記試験会場に試験開始の30分前までに入室すること。遅刻の場合，専門科目は試験開始60分後，小論文は試験開始30分後まで入室を認める。なお，試験終了時刻前に到着し，遅刻が本人の責めに帰さない場合，試験終了時刻の繰り下げを認めることがある。全ての筆記試験で試験終了時刻前の退室（早退）は認めない。口述試験及び面接においては遅刻を認めない。

・筆記試験に際しては，黒鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・鉛筆削り・時計以外を使用してはならない。辞書等（電卓あるいは辞書機能付き携帯電話・時計等も含む）は使用できない。電卓に関しては，試験に必要な場合のみ大学側で準備する。

⑵ 英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）を利用した試験科目「英語」の実施要領について

1．試験の方法と注意事項

⑻ 試験科目「英語」は，TOEFL/TOEIC/IELTS スコアを次項「2. 換算方法」に従って換算することにより採点する。

⑹ 本試験で有効とする外部検定試験の種別，受験年月日，及びスコアシート原本の提出方法については，募集要項の「6. 提出書類」及び「7. 2（選抜方法等）都市環境学専攻」を参照すること。

2. 換算方法

⑻ TOEFL iBT からの換算は，上限 200 点，下限 0 点として以下の式を用いる。

TOEFL iBT スコア × 2.92 − 83 ＝換算点

⑹ TOEIC からの換算は，上限 200 点，下限 0 点として以下の式を用いる。

TOEIC スコア × 0.348 − 104 ＝換算点

⑽ IELTS からの換算は，一般的に用いられる換算表に基づいて TOEFL iBT に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後，⑻の方法を適用する。

⑾ 以上の換算方法は，今回の試験においてのみ適用されるものとする。

⑶ 面接

持続発展学コースの全教員による面接である。詳細については，試験当日配布する資料を確認の上，指示に従うこと。

⑷ 入学定員

都市環境学専攻の募集人員は「学生募集要項」の記載のとおりであるが，持続発展学コースには，第Ⅰ期入学試験による入学見込み者を含め，約33名まで入学可能である。

⑸ 過去の入試問題の公表

過去の入試問題は，下記研究科ホームページより入手可能である。
https://www.env.nagoya-u.ac.jp/admission/index.html#anker06
持続発展学コースの入試情報については下記も参照されたい。
https://sd.urban.env.nagoya-u.ac.jp/main/ja/exam/ (持続発展学コース入学試験案内)

1.2 建築学コース

今回の第Ⅱ期入学試験では，建築学コースの博士前期課程の募集は行わない。

2. 博士後期課程の案内

2.1 持続発展学コース

⑴ 受験に際しての注意事項

【出願前の内諾手続き及び試験分野の設定等について】

・受験者は，別ファイル「指導教員および教育研究内容の一覧」を参照の上，持続発展学コースの教員から希望指導教員を1名選び，その氏名を受験票および写真票の「指導教員名」欄に記入すること。なお，博士後期課程を受験する者は，必ず出願前に希望指導教員に連絡をとり，受験の内諾を得た上で出願すること。

・出願書類及び希望指導教員との連絡状況にもとづき，一般選抜及び留学生特別選抜における専門科目の試験分野（3分野）を設定する。社会人特別選抜における口述試験の試験内容については，希望指導教員より個別に通知する。

【対面で実施する試験について】

・筆記試験を受験する者は，筆記試験会場に試験開始の 30 分前までに入室すること。遅刻の場合，専門科目は試験開始 60 分後まで入室を認める。ただし，遅刻が本人の責めに帰さない場合は，入室や試験終了時刻の繰り下げを認めることがある。なお，試験終了時刻前の退室（早退）は認めない。口述試験及び面接については遅刻を認めない。

・筆記試験に際しては，黒鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・鉛筆削り・時計以外を使用してはならない。辞書等（電卓あるいは辞書機能付き携帯電話・時計等も含む）は使用できない。電卓に関しては，試験に必要な場合のみ大学側で準備する。

⑵ 英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）を利用した試験科目「英語」の実施要領について

1．試験の方法と注意事項

ⓐ 試験科目「英語」は，TOEFL/TOEIC/IELTS スコアを次項「2. 換算方法」に従って換算することにより採点する。

ⓑ 本試験で有効とする外部検定試験の種別，ならびに受験年月日については，募集要項「6. 提出書類」を参照すること。

2. 換算方法

ⓐ TOEFL iBT からの換算は，上限 200 点，下限 0 点として以下の式を用いる。

TOEFL iBT スコア × 2.92 − 83 ＝換算点

ⓑ TOEIC からの換算は，上限 200 点，下限 0 点として以下の式を用いる。

TOEIC スコア × 0.348 − 104 ＝換算点

ⓒ IELTS からの換算は，一般的に用いられる換算表に基づいて TOEFL iBT に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後，ⓐの方法を適用する。

ⓓ 以上の換算方法は，今回の試験においてのみ適用されるものとする。

⑶ 口述試験・面接

口述試験・面接の控室，開始時間等の詳細については，試験当日配布する資料を確認の上，指示に従うこと。なお，面接は持続発展学コースの全教員による面接である。

⑷ 入学定員

都市環境学専攻の募集人員は「学生募集要項」の記載のとおりであるが，持続発展学コースには約11名まで入学が可能である。

2.2 建築学コース

⑴ 試験内容について

志願者は希望指導教員にあらかじめ連絡を取り，受験科目について指示を受けること。

1）専門科目（筆記試験）［一般選抜，留学生特別選抜］

志望する専門分野に関する和文または英文の筆記試験である。

2）口述試験

希望する指導教員を中心とする建築学コースの教員により，これまでの研究内容および後期課程での研究計画について発表を課した後，専門に関する能力及びコミュニケーション能力（日本語または英語による意思疎通や論理的思考力）を測る口頭試問を行う。

3）面接

建築学コースの全教員により，志望の動機，これまでの研究内容および入学後の学修や研究計画について質問する。

⑵ 受験上の注意

1） 受験票を必ず携帯し，試験中は常に机上に提示すること。

2） 各試験とも，試験開始前ないし定められた集合時間に試験場または指定場所に集合すること。集合時間に遅れた場合は，失格となることがある。なお，筆記試験においては，試験開始 30 分後までの試験場への入室を認める。

3） 各試験においては，鉛筆及びその相当物，消しゴム，鉛筆削り，図などを描くために使用する簡単な定規以外は一切使用してはならない。

4） 使用してよい時計は次のもの以外とする。辞書，電卓，端末等の機能があるものや，それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマーや学習タイマー・大型のもの。

5） 時計などのアラームや携帯電話などの通信機器の電源は，あらかじめ切っておくこと。

6） 試験会場で使用が不適切と判断されたものに関しては，その場で使用を禁ずることがある。

⑶ 入学定員

都市環境学専攻の募集人員は「学生募集要項」の記載のとおりであるが，建築学コースには約10名まで入学が可能である。

3. 2027年度都市環境学専攻指導教員および教育研究内容の一覧

別ファイルを参照のこと。

別記1

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（持続発展学コース）
2027年度　博士前期課程入学試験（第Ⅱ期）学力検査出題範囲

科目名			主な出題範囲
	分野	解答形式	
英語		【全ての選抜】 TOEFL，TOEIC または IELTS のスコアを提出する。	提出されたスコアにより成績を判定する。
専門科目	環境工学・環境政策	【一般選抜，留学生特別選抜】 環境工学・環境政策(３問)，環境化学(2 問)，計画学(2 問)の 3 分野から出題する 7 問の中から，３問を選択して解答する。(1 分野のみから選択してもよい)	地球温暖化・気候変動対策，脱炭素社会・循環型社会，環境と経済，国土・都市・交通と環境，環境アセスメント，生物多様性保全，防災・減災，上下水道，廃棄物処理，都市の大気・温熱環境，住環境など。
	環境化学		資源・エネルギー化学，化学熱力学，電気化学，物質の製造・循環利用・廃棄，グリーンサステイナブルケミストリー，大気・水質・土壌汚染物質，地球温暖化・オゾン層破壊・酸性雨関連物質，生活関連物質，環境分析化学など。
	計画学		土木計画における統計的・数理計画的手法，費用便益分析，地域計画，都市計画，土地利用計画，交通工学などに関する問題。
小論文		【一般選抜，留学生特別選抜】 １問が出題される。	環境問題，社会･経済などに関する小論文で，主としてその論理性を問う。

※ 持続発展学コースのⅡ期入試は，文系を含めた幅広い分野の出身者が受験できるように配慮しています。

別記２

2027 年度・環境学研究科都市環境学専攻持続発展学コース博士前期課程・博士後期課程
「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」の案内

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻では，工学研究科土木工学専攻と協力して，「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」を実施している。本プログラムは，アジア・アフリカ諸国が直面する様々な環境問題の解決を担う次世代の環境リーダーの育成を目的とするものである。

下記の説明および資料を参照の上，参加を希望する場合には，必要な手続きをとること。

対象学生

博士前期課程・博士後期課程に入学する留学生および日本人学生

プログラムの概要

※ 詳細については，ホームページ（https://www.civil.nagoya-u.ac.jp/nugelp/index.html）を参照のこと。

・ 地球環境問題や持続可能な開発問題を対象に，事象の理解，対策技術の理解・修得，制度設計・政策運営の能力獲得のための教育を実施する。講義等は英語で行う。
・ グローバル研究インターンシップを必修科目とする。旅費等の援助については指導教員と相談すること。
・ 留学生と日本人が相互に啓発しあいながら共に学び，国際的コミュニケーション能力を向上させる。
・ 博士後期課程の学生は「統合環境学特別コース」に準じたカリキュラムで専門的且つグローバルな視野を培う。
・ プログラム所定の学業を修めた学生には，修士学位或いは博士学位に加えて，プログラム修了認定証を授与する。

参加希望から選考，参加までの流れ

① 入学志願票のプログラム参加希望に関する欄に，参加希望である旨記入すること。
② 入学時に，プログラム専用のガイダンスを実施する。
③ 入学者のうち，参加希望者を対象に面接を実施する。入試成績，英語能力，意欲などを総合的に評価して，プログラム学生を選考する。
④ プログラムから選考結果を通知する。
※ 選考案内を含むプログラムからの連絡は，基本的にメールで行う。参加希望の受験者は必ず，入学志願票に確実に受信できるメールアドレスを記載すること。特に入学手続前後は，定期的にメールを確認すること。

注意事項

・ プログラムの博士前期課程に所属する学生は，プログラム指定科目（グローバル研究インターンシップ２単位を含む計10単位）を履修することが求められる（学位取得に必要な単位としてカウント可能）。
・プログラムの博士後期課程に所属する学生は，プログラム指定の後期課程の授業科目から，SDGs基礎セミナーと臨床環境学研修を含む10単位以上を履修することが求められる。
・ プログラム学生は通常の学生と同様に，都市環境学専攻持続発展学コースの教員の中から，自分の専門や興味にあわせて指導教員を自由に希望することができ，それぞれの研究室に所属して専門分野について学びながら，プログラム履修を進める。プログラム参加については，**事前に希望指導教員に相談すること。**
・ プログラムが提供する科目は一部を除いて開放されている。したがって，プログラム参加学生以外の一般学生も受講可能である。

問い合わせ先：名古屋大学国際環境人材育成プログラム（NUGELP）
〒464-8601 名古屋市千種区不老町D 2-1(150)　名古屋大学環境総合館223号室
E-mail: envleaders@urban.env.nagoya-u.ac.jp

社 会 環 境 学 専 攻

1. 社会環境学専攻の分野，出願に当たっての注意

1. 1　社会環境学専攻は，それぞれカリキュラムの異なる５講座によって構成されています。学生は，それらの各講座のいずれかに所属し，指導教員の指導の下で修士論文または博士論文を作成することになります。所定単位を履修し，修士論文ないし博士論文の試験に合格すると，修士または博士の学位を取得できます。社会環境学専攻で取得できる修士ないし博士の種類は環境学・経済学・法学・社会学・地理学のいずれかで，それぞれ単位取得の要件が異なります。各講座の説明については，社会環境学専攻のホームページをご覧になってください。

（http://www.env.nagoya-u.ac.jp/dept/society.html）

また，過去の入試問題は，環境学研究科のホームページの「入試」をご参照ください。

（http://www.env.nagoya-u.ac.jp/admission/index.html）

環境政策論，経済環境論，環境法政論，社会学，地理学の５つの分野で学生を募集します。各分野は各講座にそれぞれ対応します。社会環境学専攻の受験にあたっては，それらから志望する分野（あるいは指導を希望する教員）を１つ選ばなければいけません。第２志望分野の募集は行っていません。

入学後，指導教員とよく相談して学修・研究計画を立てる必要がありますので，どの分野を志望するか，どの教員の指導を希望するかということについて，受験前によく検討しておくことが必要です。

なお各教員の教育研究内容を別ファイルに掲げておきますので，検討の際に参考にしてください。とくに指導を希望する教員が決まっている場合，あるいは教育研究内容について質問がある場合は，受験前に，各教員まで遠慮なく連絡してください。

別ファイルで＊印が付いている教員を指導教員として希望する場合は，志願理由書の「指導教員名」欄に教員名だけでなく志望分野名も明記するようにしてください。

1. 2 2027年度社会環境学専攻指導教員および教育研究内容の一覧

○別ファイルを参照のこと。

2. 入学試験について

社会環境学専攻の入学試験は，大きく，筆記試験と口述試験とから構成され，筆記試験は各分野の専門内容に関する問題を出題します。自己推薦入試および後期課程の社会人特別選抜については，口述試験のみが課されます。また，前期課程の一般選抜，留学生特別選抜では，英語試験を行います。英語試験は，提出された英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）のスコアシートをもとに採点します。

筆記試験では，それぞれ入学志望分野の出題に解答しなければいけません。試験時間，各分野の出題範囲，その他の注意事項などについては，学生募集要項をご覧になってください。なお口述試験は，基本的に分野ごとに行われます。

口述試験の試験会場等については，後日，E-Mail等で受験生本人に直接通知されます。なお，筆記試験と口述試験は名古屋大学内の試験会場で対面式で行います。

指導を希望する教員が決まっている場合，あるいは研究したい内容や教員の教育研究内容について質問がある場合は，受験前に各教員に連絡するようにしてください。特に，留学生の場合は，必ず指導希望教員に事前に連絡をしてください。

3. 博士前期課程の入学試験（一般選抜，留学生特別選抜）における英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）の利用について

1．試験の方法と注意事項

(a) TOEFL/TOEIC/IELTS のスコアシートは，原本を提出するものとします。原本を提出しない場合，試験科目「英語」の点数が零点になりますので十分に留意してください。

(b) 試験科目「英語」は，TOEFL/TOEIC/IELTS スコアを次項「2. 換算方法」に従って換算することにより採点します。

(c) 本試験で有効とする外部検定試験の種別，スコアシート原本，受験年月日，及び提出方法については，募集要項「6. 提出書類」及び「7. 3（選抜方法等）社会環境学専攻」を参照してください。

(d) 入試までに開催されるTOEFL/TOEIC/IELTS の試験は，回数が限られています。これから受験する者は試験開催日程に注意してください。

2. 換算方法

(a) TOEFL iBT(Home Edition を含む)からの換算は，Educational Testing Serviceが公表しているTotal Score Comparisonsに基づいてTOEFL（PBT）に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後，(d)の方法を適用します。

https://www.kuleuven.be/english/apply/documents/TOEFL_iBT_Score_Comparison_Tables.pdf/view

(b) TOEIC からの換算は，以下の式を使用してTOEFL（PBT）に換算した後，(d)の方法を適用します。

TOEIC スコア × 0.348＋296＝ TOEFL（PBT）スコア

(c) IELTS からの換算は，一般的に用いられている換算表に基づいてTOEFL（PBT）に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後，(d)の方法を適用します。

参考：https://au-ryugaku.com/comparison-table/

(d) TOEFL（PBT）からの換算は，657点以上を満点に相当する100点，350点以下を 0 点とします。TOEFL（PBT）スコアが657～350点の場合，以下の式を用います。

$$\frac{\text{TOEFL（PBT）スコア}-350}{(657-350)} \times 100 = \text{換算点}$$

(e) 以上の換算方法は，今回の試験のみ適用されるものとします。

4. 社会環境学専攻　筆記試験会場　環境総合館　へのアクセス



臨床環境学プログラムの案内

臨床環境学とは，環境学研究科によって提案された新しい環境学のコンセプトであり，地域の持続可能性に関する課題の解決に直接貢献する，異分野連携・トランスディシプリナリな研究・実践を言う。臨床環境プログラムは博士後期課程でのそのような研究・実践ができる人材を育成するプログラムとして，研究科附属持続的共発展教育研究センターが主体となって実施している。臨床環境学研修では，地域の現場に入り，地域課題の発見とその解決に向けた処方箋の提案を行う。SDGs 基礎セミナーでは，臨床環境学とは何か，また持続可能な開発と SDGs の基礎的内容を学ぶとともに，自身の研究テーマが SDGs 達成にどう貢献できるかを考える。所定の単位を取得した学生に修了証を授与する。

1．本プログラムは，環境学研究科の博士後期課程の各専攻（履修コース）に入学または進学する者が，各自の専攻・履修コースのカリキュラムに加えて，本人の希望により選択するものである。
2．希望者は入学志願調査票の所定欄に ✓ を記入すること。
3．主旨は専門分野の勉強・研究だけでなく，異分野連携で地域の課題解決に貢献する臨床環境学に積極的に参画して視野を広げようとする学生を育てることにある。
4．修了要件：臨床環境学研修（３単位）と SDGs 基礎セミナー（２単位）の５単位を履修すること。
5．本プログラムの修了者には学位とは別に修了証を授与する。
6．臨床環境学プログラムに関連した後期課程授業は次の通りである。いずれも，研究科共通科目である。
（ア）臨床環境学研修（３単位）国内のフィールドにおいて，異分野の教員・学生から成るチームが，問題特定から解決策の策定までの実践的な研修を進める。
（イ）SDGs 基礎セミナー（２単位）臨床環境学とは何か，また持続可能な開発と SDGs の基礎的内容を学ぶとともに自身の研究テーマが SDGs 達成にどう貢献できるかを考える。

知の共創プログラム特別コースの案内

https://www.env.nagoya-u.ac.jp/co_creation/index.html

環境学研究科では SDGs に代表される喫緊の環境問題の解決に向けて，行政や企業，NPO などの社会のさまざまな現場で問題に直接向き合う方々と共に，超学際的な（大学の研究者と社会のさまざまなステークホルダーが，研究計画の立案から成果の社会還元まで，研究のあらゆる段階で直接連携する）共同の取り組みを推進するために，2022 年度から，社会人博士後期課程の入学者を対象にして，知の共創プログラム特別コースを開始した。以下，知の共創プログラム特別コースについて説明する。入学試験の詳しい内容については，募集要項の「7.4 知の共創プログラム特別コース」を参照すること。なお，本特別コースの 10 月入学を希望する者は，秋入学募集に出願すること。

1．本特別コースは，環境学研究科の博士後期課程を社会人特別選抜の枠組みで受験する者の中から自ら希望する者を対象としており，本特別コースへの入学・進学を希望する者は，出願時に本コースを「専願」もしくは「併願」で選択しなければならない。本特別コースへの入学・進学を希望する者は，志願票調査票の所定欄に ✓ を記入すること。

2．本特別コースの入学・進学者の定員は，毎年，若干名である。

3．本特別コースへの入学・進学を希望する者は，出願時に提出する「研究計画書」（別ファイル様式）の中で，主指導教員及び主指導教員とは異なる専門性を有する教員からなる集団指導チームの構築状況を記入する必要がある。そのため，募集要項で定めた期日までに主指導教員と研究計画書の内容の相談を開始し，出願までに主指導教員から研究計画書の内容の承諾を得ておかねばならない。集団指導の目的は，多分野の複数の教員と協力することで，学際的（多分野融合型）アプローチによる問題解決型の研究を可能にするためである。

4．本特別コースの入学・進学者に対しては，授業料相当額の研究費が，主指導教員の研究室に，本特別コースの大学院生自身による使用を目的として，配分される（本人が希望しない場合は，辞退することも可能である。研究計画書の様式の所定欄に✓ を記入すること）。但し，配分予定額を上回る希望者がいる場合，研究費の減額を行うことがある。また，入学料相当額の研究費は，特に配分されない。

5．本特別コースの入学試験は，①研究計画書の書類審査と口述試験により研究内容の超学際性（社会と大学との連携の内容）を審査する試験と，②本人の学力を審査する各専攻での試験（日程と実施方法は，募集要項及び受験案内を参照のこと）の 2 段階からなる。①の口述試験はオンラインで実施され，日程の詳細は募集要項の「7.4 知の共創プログラム特別コース」を参照すること。

6．①の口述試験は，15 分間の研究計画のプレゼンテーションと 15 分間の質疑からなる。

7．本特別コースを「専願」で出願した者で，①で不合格となったものは，②に進むことはできないが，本特別コースを「併願」で出願した者は，①で不合格になっても，通常の社会人特別選抜の枠組みで，②の各専攻の試験を受験することができる。

8．本特別コースの入学・進学者は，研究科共通科目「知の共創プログラムセミナー，コロキウム」の履修を必修とする。同セミナーの詳しい内容については，研究科ホームページならびにシラバスを参照すること。

9．学位は，各自の所属する専攻（主指導教員の所属する専攻）での取り扱いに従って審査・授与される。本特別コースの院生は，博士（環境学）もしくは博士（個別分野）の学位を取得することができる。